

高校卒業 30 周年記念 兼 常本校長退職記念 交流試合

市神港 OB VS 報徳学園 OB



高校卒業 30 周年と常本校長の退職を記念して、去る 3 月 28 日栄グラウンドにおいて、当時、兵庫県大会の秋春を連覇した当校と、夏の県大会を制した報徳学園が交流戦を開催した。

(H21.8.2 が雨天延期となったため)

報徳は、夏の甲子園ベスト 8、国体にて全国制覇を成し遂げたチーム。率いるは、昭和 36 年夏の甲子園で対倉敷工業戦の采配で「逆転の報徳」の異名をとった名将 沢井則夫元監督。

そして、当校は兵庫県秋春連覇に続き、明治神宮大会準優勝に導いた常本明元監督。それぞれのベンチで久しぶりの指揮を採った。

試合は報徳の先攻、当校投手は主戦小倉の調整不足により二枚看板の本格右腕で元巨人の西尾がマウンドを任せられプレイボール。序盤こそ静かな立ち上がりを見せたが、うってかわって中盤からは両校の打線が繋がりをみせ 5 対 5 の同点で迎えた最終回、残念ながら報徳に得点を許し惜敗した。

(当校の得点経過) 2 回 川元、東、池沢の出塁で満塁とし、新井が四球を選び押し出して 1 点目。
3 回 西村出塁、上野が中前打で繋ぎ、東の内野への打球の間に西村が好走本塁を突き 2 点目。
4 回 池沢左前打、小倉出塁で 1.2 塁とし前田のあわやの左越えエンタイトル二塁打で 3 点目、続く西村が 4 点目となる中前タイムリー、この後竹内も出塁し満塁としたが木山の打球は惜しくも野手の正面を突いた。
5 回 先頭三塁打の豊永を池沢が左前タイムリーで迎え入れ 5 点目。6 回上野の左越え二塁打も後続を断たれ得点に結びつかず、迎えた最終回二死から粘りを見せ、保田、角田(代走佐藤)、前田の連続安打で満塁とし、前打席適時打の西村に絶好のサヨナラの場面が巡ったが快音響かず万事休す。ゲームセット。当日は主軸の名和、下村や黒崎、井上を欠いたが、守っては、捕手を中心に当時の全員で守り抜く野球を展開。二つの併殺や内外野の好守で幾度のピンチを切り抜け、西尾、角田の力投に応えた。

50 歳を目前にした両校ナインの微笑ましい珍プレイや、元球児を彷彿させる好プレイも随所に見られ、まさに伝統校同士の大いに感動した交流戦となった。

特に、試合が纏れた中盤から終盤にかけて、両監督とも勝負師の顔つきに戻っていたのがとても印象的だった。次回の還暦交流会を約束して元気に第二試合会場(新開地)へと向かった。

